

景観と風景を活かされ、育つまちへ

名城大学都市情報学部
海道清信
kaidou@meijo-u.ac.jp

こんばんは。

今日は、東浦町の景観まちづくりについて、みんなで考えていきたいと思っています。

個性ある都市やまちの意味

現代都市は、巨大な建設投資と技術を動員して、**効率性、快適性**をめざして開発整備されてきた。そのために、生み出された都市空間は個性のないものになりがちである。

しかし、それぞれの都市や地域は、利便性や効率性だけでは評価できない**固有の価値**を持っている。

また、住民、市民は自分たちが住むまちの**独自の価値、共感できる風景**を求めている。

そして、土地や住宅に余裕ができてきた時代、住むところ・住み方を選ぶことが出来る時代に、**選ばれる地域**であるためにも、地域の個性や魅力が重要となってくる。

2

景観まちづくりを行う目的は、他のまちとは違う独自性を出すことに役立つからです。

景観まちづくりとは

意味：

良い景観や風景を創造したり、維持したり、守り、活用し、育てることをテーマとしたまちづくり。

ねらいや効果：

- ① 住民、コミュニティ意識が高まる
- ② 取り組みを通じて生活環境や魅力を改善できる
- ③ 直接的間接的な経済効果が得られる

3

景観まちづくりの効果は、

- ①住民、コミュニティ意識向上：住民が誇りや愛着をもって住むことができる
- ②アメニティ(生活環境、魅力)改善：暮らしやすいまちをつくる
- ③経済的効果：まち全体のイメージアップ、このまちに住みたい人が増え、人口増加につながる

このような点であると思っています。

景観法とは

- 平成16年制定
- 全国で、約300の自治体で、「景観計画」が策定されている
- 「景観計画」では、それぞれの地域の景観的特長を調査分析して、景観まちづくりの目標とルールを定める。
- 景観計画の対象(景観計画区域)は多くの自治体では行政区域全体としている。
- 住民参加で計画の策定などを進めている
- 大規模な開発行為に対しては、届出制度があり、ルールに基づいて、規制誘導する。

4

景観法は、国の法律として制定されました。

それにより、自治体ごとの個々の条例の必要性が高まりました。

それ以前は、京都や金沢、鎌倉など景観に特徴のある自治体が条例を独自で作り、景観づくりをしていました。

愛知県内の景観条例、景観計画策定状況

自治体	景観条例	策定年度
名古屋市	名古屋市都市景観条例	昭和59
豊橋市	豊橋市まちづくり景観条例	平成4
春日井市	春日井市都市景観条例	平成6
一宮市	一宮市都市景観条例	平成7
小牧市	小牧市都市景観条例	平成13
豊田市	豊田市景観条例	平成20
犬山市	犬山市景観条例	平成20
瀬戸市	瀬戸市景観条例	平成22
半田市	半田市ふるさと景観条例	平成22
常滑市	常滑市やきもの散歩道地区景観条例	平成22
みよし市	水と緑の風景を守り育てる条例	平成23
岡崎市	岡崎市水と緑・歴史と文化のまちづくり条例	平成24

景観法 平成16年
景観法以前は自治体の独自
条例による

東浦町
景観計画策定 平成28年度
景観条例施行 平成29年度

平成27年4月1日現在

愛知県HPより

愛知県内では、名古屋市が一番初めに、都市景観条例をつくりました。
その後、大きな市町が続きましたが、東浦町は、町の中でも唯一景観条例を策定
しています。

東浦町での景観への取り組みの経緯

- 平成24年度 景観法による景観形成団体
- 平成25年度 景観計画策定のワークショップ6回。町民アンケート調査 368/1500人
- 平成26年度 景観計画検討委員会 6回。ぶどう畑景観意見交換会。
- 平成27年度 景観計画検討委員会6回、景観シンポジウム、景観フォト&エッセイコンテスト
- 平成28年度 景観計画策定、景観形成ガイドブック策定、景観条例制定、景観まちづくり委員会、景観絵画コンクール
- 平成29年度 景観条例施行、景観審議会設置、景観アドバイザー運用。景観まちづくり委員会。景観絵画コンクール。景観共感プロジェクト。
- 平成30年度 景観まちづくり委員会、景観絵画コンクール、景観共感プロジェクト(明徳寺川地区の眺望を開く樹木伐採)、重点候補地区(明徳寺川)ワークショップ、景観をテーマとする住民懇談会(各地区)、ぶどう畑景観意見交換会

6

東浦町では、まち全体が景観地区となっています。

- ・平成24年度には、町が景観法による景観形成団体に認定されました。
- ・平成25年度には、町民ワークショップを行い、町民の意見を集約していきました。
- ・平成26年度・27年度には、景観計画検討委員会、ぶどう畑景観意見交換会、景観シンポジウム、景観フォト&エッセイコンテストなどを行ってきました。
- ・平成29年度には、景観条例施行が施行され、アドバイザーの方の意見をお聞きしながら、運用をしてきました。

開発者が開発・建築を行う場合、町に届け出をいただき、それがルールに沿っているか確認し、問題がある場合は、開発者と話し合い、修正していただくというものです。

想像以上に件数があったため、大変ではありましたが、それにより知識や経験を積み重ねてきました。

すぐに景観がよくなるわけではありませんが、少しずつ効果がでてきていると思います。

また、「景観共感プロジェクト」というものも行いました。

「景観」は、行政が住民におしつけるものではありません。

住民や地権者、事業者の方が、自分たちのまちを大事にしようと思う気持ちを培っていかねばなりません。

景観が大事だということを、共感してもらえるような取り込みをしようということが、景観計画にも盛り込まれています。

平成30年度には、景観まちづくり委員会、景観絵画コンクール、景観共感プロジェクト、ワークショップ、景観をテーマとする住民懇談会(各地区)、ぶどう畑景観意見交換会を計画しています。

東浦町の景観の特徴と景観まちづくり



7

これらは、HPから見るすることができますので、参考にしてください。

東浦町景観計画 平成28年4月

はじめに 「景観まちづくり」の基本的
考え方

第一部 全町に関する事項

第1章 東浦町の景観特性と課題

第2章 基本理念・基本方針

第3章 行為の制限に関する事項

第4章 景観重要建造物及び景観重要
樹木の指定の方針

第5章 公共施設・公共建築物及び屋
外広告物に関する方針

第二部 重点区域の候補地区に関する
事項

第三部 本計画策定後の行動・事業に
ついて

参考資料

はじめに

1 なぜ、いま、東浦町で「景
観まちづくり」か？

(1) 「景観まちづくり」とは何
か

(2) 百年後にも東浦が東浦
でありつづけられるために
何をすべきか？

(3) 「東浦らしい景観」とは
何か？ それを再発見する

8

東浦町景観計画は、他の自治体の計画と比較しても、独自のものであり、よくつられていきます。

景観まちづくりとは
「東浦町景観計画」による

「この場所の風景がいいな、と
いう共感を広げ、人々が生き
生きと暮らせる居場所をつくり
育てるのが、景観まちづくりで
ある」

9

このスライドは、東浦町景観計画の中から引用したものです。

景観、風景、風土 「東浦町景観計画」より

「景観」が人々の暮らしぶりとなって定着すると、「風景」となり、さらに歴史や文化といえる程度に根付くと、「風土」となる。

10

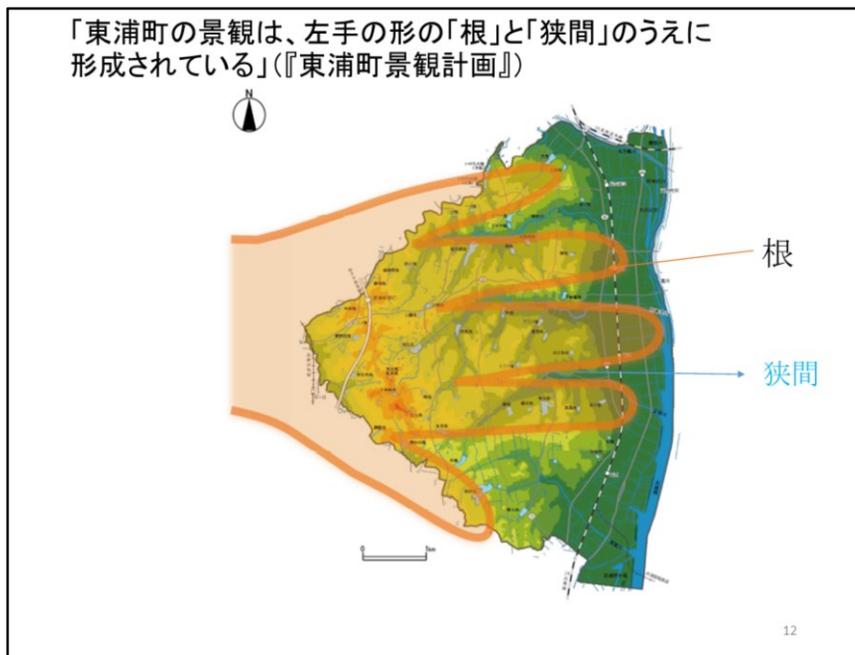
「景観」がつくられるには約10年と短期間、「風景」は100年単位、「風土」は数100年単位でできるものと、専門的には言われています。

「東浦らしい景観」とはなにか

東浦の個性を示す景観は、川筋（狭間、はざま）とそれを挟む丘（根、ね）の起伏に富んだ地形のうえに、人々の生活が積み重ねられて形成されている。

11

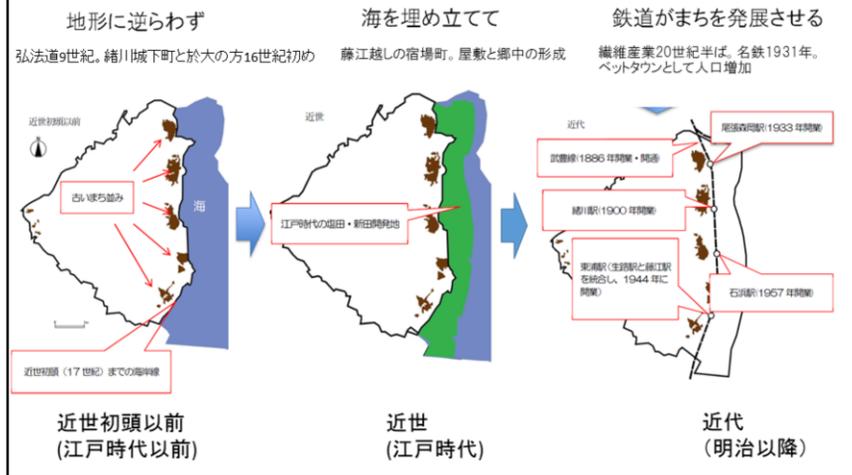
まちのルーツを探るには、地形が大事になると思います。
地形の上に、住民の生活が積み重ねられて「まち」ができ、それが発展していきます。
東浦町の場合は、この流れが明確であるのが特徴です。



東浦町の景観の特徴は、左手を重ねてみると、うまく指が尾根と重なることです。ここにまちなみがあります。また、指と指の間が、狭間になります。「根」と「狭間」の景観は、東浦町の景観をつくる土台となります。

地形は、まちの構造を理解するのに大切なものです。東浦町の場合は、その構造が分かりやすい形になっています。このように、「根」と「狭間」の景観は、東浦町の最も基本的な構造であると言えます。

東浦のまちの形成



東浦町のまちの発展について説明します。
江戸時代以前では、古いまちなみが尾根の先の方に形成されていきました。
近世になると、海を埋め立てて田ができました。
明治時代以降は、塩田、鉄道ができ、南北につながっていきました。
東浦町は、500年位の歴史のある、伝統的なまちといえます。

景観に対する町民の意見

町民アンケート調査結果から。成25年8-9月

『東浦町景観計画』より

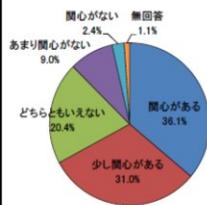
《アンケートの結果の概要と計画の反映に向けた考察》

結果の概要・ポイント	考察
○景観へ関心をもつ住民は多くなっているが、30～40歳代、男性の関心はやや低くなっている。	⇒ ■30～40歳代、男性を中心に、景観への関心をさらに高める取組を検討する必要がある。
○景観への満足度はあまり高いとはいえず、「どちらともいえない」の回答が最も多くなっている。	⇒ ■住民に景観のイメージが理解されていないことが要因と想定されることから、景観づくりを理解し、東浦町の景観像の共通認識を醸成する取組を検討する必要がある。
○10年前に比べ景観がよくなったとする意見も多くなっている。	⇒ ■古くからの資源の保全だけではなく、まちづくりにおける新しい景観づくりも必要となっている。
○重要な景観資源としては、「田園」「山林や里山」「大きな公園」「歴史的資源」が多くなっている。	⇒ ■里山や田園風景などの自然資源、社寺や町並みなどの歴史資源の保全・活用を景観づくりの中心に位置づける必要がある。
○お気に入りの風景としては、田畑、田園風景、里山の他に、ぶどう畑や果樹園をあげる意見が多くなっている。	⇒ ■ぶどう畑は東浦町の特徴的な景観として、保全・活用していく必要がある。
○丘陵地の高台や斜面の上からぶどう畑や旧道沿いの町並みや対岸の刈谷方向などの眺望をお気に入りの風景としてあげる意見も多くなっている。	⇒ ■眺望が楽しめる場所（視点場）を整えることも必要である。
○大切にすべき景観として「緑豊かな自然を感じる景観」の他に「毎日見てホッとする景観」も多くなっている。	⇒ ■名所的景観だけではなく、各地区の住宅地の周りの身近な生活景観の保全や創造も必要となっている。

景観計画策定にあたり、アンケート調査を行いました。

景観に対する町民の意見

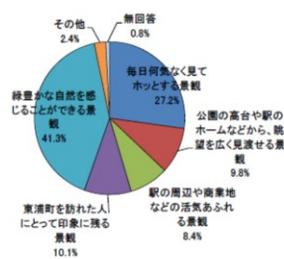
町民アンケート調査結果から。成25年8-9月



景観への関心
3分の2は「ある」



景観の現状の満足度
「満足」は3分の1



どのような景観を大事にすべきか

- 1 緑豊かな自然
- 2 ほっとする景観
- 3 町外の人にも印象が残る
- 4 眺望を広く見渡せる景観

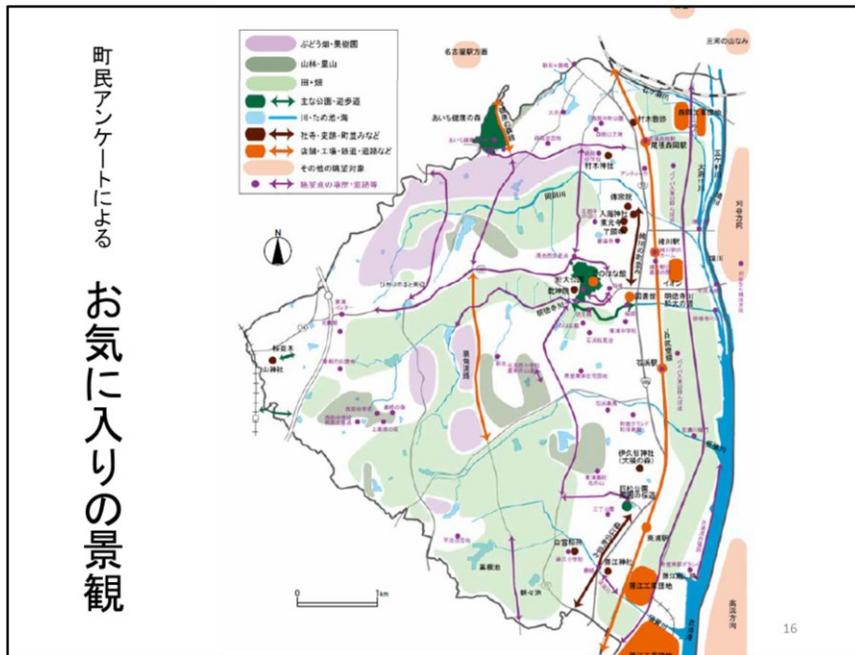
15

注目すべき内容は、3分の2の方は、景観に関心があるが、現状の景観に満足しているのは、全体の3分の1の方しか満たないということです。

このギャップを埋め、景観への関心も高く、満足度も高いという状態にするのが、景観まちづくりだと思っています。

東浦町は、先ほど述べたように、「根」と「狭間」の上に形成されています。

「どのような景観を大事にすべきか」の結果から、町民の方も「景観」や「風景」としてこの「根」と「狭間」の特徴を意識しているのだと思います。



この地図からは、町内全域にわたって、いたるところに特徴のある景観資源や自慢できる景観があるということが分かります。

東浦の景観構成要素

景観要素（景観計画のテーマ区分）		対象エリア・地点	昨年度中間報告における要素区分
「集」の景観	まちとみちの景観	「屋敷」と「郷中」の景観	市街化区域のうち、近郊以前から形成された市街地のエリア（弘法道などの歴史的な道路軸を含む）
		新しいまち並みの景観	上記以外の市街化区域（主要幹線道路沿道などの交通軸等を含む）
	農と緑と水の景観	ぶどう畑のある田園景観	丘陵部にひろがるぶどう畑を中心とした農地のエリア
		「根」と「狭間」の景観	東西方向に流れる堀川とそれに沿った農地、里山が一体となった軸状のエリア
	岸辺の景観	衣浦湾、堀川沿いの堤防に沿ったエリア	自然・田園景観
「広がり」をもった景観		それぞれの「集」のなかにおいて、上記の各景観要素のなかで特に眺望景観が良好な代表的スポット	眺望景観
「点景」の景観		それぞれの「集」の景観を構成する、建造物、工作物、碑、樹木などの「点」的な景観要素	—

1. 「場」の景観:

・まちとみちの景観—「屋敷」と「郷中」、新しいまち並み

「屋敷」(緒川城下町)
「郷中」(森岡、石浜、生路、藤江)

・農と緑と水の景観—ぶどう畑のある田園景観、「根」と「狭間」の景観

「ぶどう畑」(森岡)
「根と狭間」(明德寺川地区)

・岸辺の景観

2. 「広がり」を持った景観

3. 「点景」の景観

今までのまとめとして、

1. 「場」の景観
2. 「広がり」を持った景観
3. 「点景」の景観

の3つの構成にわけました。

景観計画では、『1. 「場」の景観』を最も重要視しています。

その中で、4つの重点区域候補地区を定めました。

- ・「屋敷」(緒川城下町)
- ・「郷中」(森岡、石浜、生路、藤江)
- ・「ぶどう畑」(森岡)
- ・「根と狭間」(明德寺川地区)

これらの地区は、よりきめ細やかに規制を行ったり、景観を育てていきたいと思っています。

第6章 重点区域の景観まちづくりの方針

6-1 重点区域の考え方

■「東浦らしさ」のある場所

- ・東浦のルーツとなる古いまち並み【屋敷と郷中のまち並み】
- ・歴史遺産（文化財）とその周辺の景観【屋敷と郷中のまち並み】
- ・町を代表する（した）地場産業の生産の場【森岡のぶどう畑】【生路ののこぎり屋根】

■住民が集える場所

- ・町の中央を流れる水辺と緑の「ほっとする場所」【明德寺川の根と狭間】
- ・東浦のルーツとなるかつての城下町・生活の中心であった商店街のまち並み【緒川の屋敷のまち並み】

■放置すれば失われていくもの

- ・伝統的なスタイルの民家、町家【屋敷と郷中のまち並み】
- ・市街地のなかの緑【屋敷と郷中のまち並み】
- ・まちなかのコミュニティ、絆【屋敷と郷中のまち並み】
- ・農地と農作業の風景【森岡のぶどう畑】【明德寺川の根と狭間】

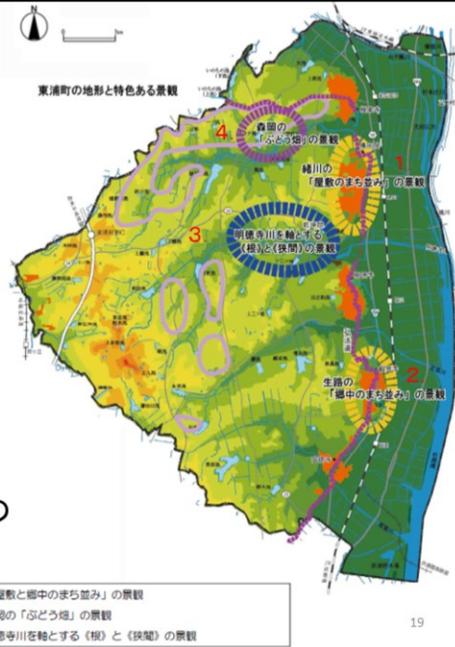
18

重点区域候補地区は、これらの理由から選定しました。
現在は、景観まちづくり委員会の中で、話し合いを進めています。

景観重点区域 の候補地区

重点区域の選定の考え方

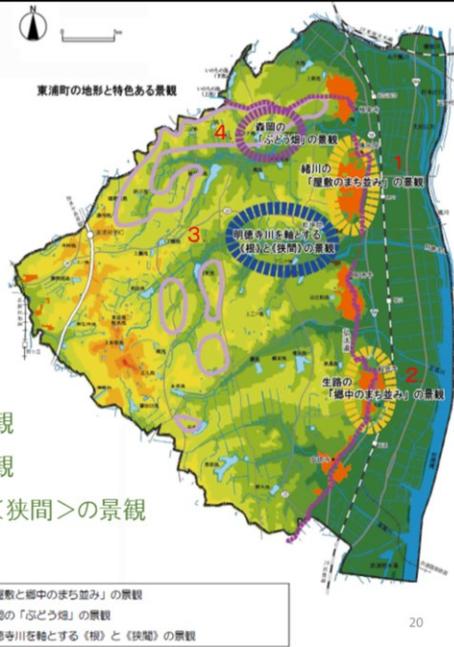
「東浦らしさ」のある場所
住民が集える場所
放置すれば失われていくもの



景観重点区域の 候補地区

4地区

1. 緒川の「屋敷のまち並み」の景観
2. 生路の「郷中のまち並み」の景観
3. 明徳寺川を軸とする〈根〉と〈狭間〉の景観
4. 森岡の「ぶどう畑」の景観



<屋敷>(緒川)と<郷中>(生路)の景観

景観特性と課題

■「屋敷」と「郷中」の現状と課題

- ・東浦町のルーツとなる古いまち並み
- ・弘法大師が歩いた時代から、戦国時代、現代に至る歴史が重層的に残る（文化財、古いまち並み、商店）
- ・放置すれば、古い家屋や緑、地域のコミュニティ、絆が失われていく
- ・放置すれば、地域の文脈になじまない新しい家屋が増えていく

■「屋敷」と「郷中」をどうしていくか？

身近な生活景観のなかにある歴史の「見える化」＝再発見を目指す

☆「歴史的なまち並みの保全」と「まちのコミュニティを元気にし、新たな人を呼ぶまちおこし」が両輪となった景観まちづくり

21

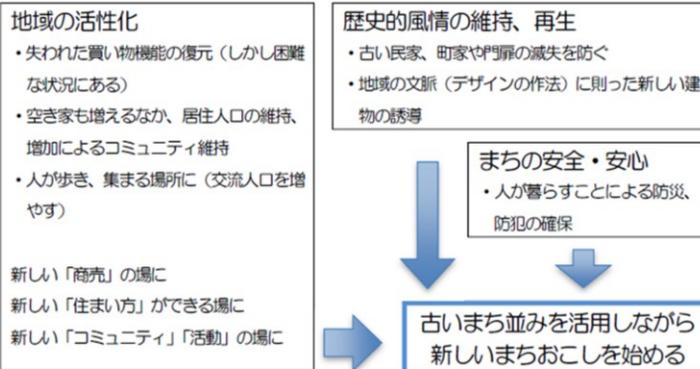
緒川と生路、屋敷と郷中において、景観まちづくりをおこなうことで、以下の効果があると思っています。

- ・地域の活性化
- ・歴史的風情の維持、再生
- ・そこに暮らす方の防災・防犯面での安全性が増す

<屋敷>(緒川)と<郷中>(生路)の景観

課題とまちづくりの方向

『東浦町景観計画』より



22

今後、古いまちなみを活用した新しいまちおこしについて、提案していきます。

生路の景観



23

先日、生路のまち歩きをしました。
生路の景観の中でも特徴的なのが、伊久智神社のような古い神社、神社の中の緑や歴史、細い路地、黒い塀です。

生路の景観



24

建物が取り壊されて空き地になっているところがありますが、新しく建った家も黒く塗られています。

空き地が増えると、建物を側面から見るが多くなります。

そういったことを考慮し、景観を壊さないよう丁寧に対応されていると思いました。

<郷中>(生路)の景観

景観の特徴と課題

『東浦町景観計画』より

■景観特性・景観資源

- ・弘法道沿道の黒壁の農家住宅の家並みや社寺境内地に魅力がある
- ・弘法道や伊久路神社の境内や参道から見下ろす、民家の瓦葺の屋根の連なり
- ・伊久智神社、天満宮、観音寺、常照寺、古い家屋
- ・斜面の樹林、社寺境内林の緑
- ・黒い板壁が地域の色
- ・国道366号東側の紡績産業の名残（のこぎり屋根）や、文化遺産としての住宅（神谷邸、大生紡績の住宅（寮）など）



■現状と問題点・課題

- ・古い家屋が急速に失われつつある
- ・古い家並みと調和しない新しい家屋が増えつつあり、また空き家も増加している
- ・弘法道は地域の人たちにとっての散歩道として利用されている

<郷中>(生路)の景観

景観まちづくりの方向性

『東浦町景観計画』より

■景観まちづくりのテーマ・方向性

身近な生活景観を活かしたまちづくり（気品や風情を感じる住宅地の散歩道をつくる）

- ・弘法道とその周辺の路地を、気持ちのよい散歩道に
- ・静かなたたずまいを活かした風情のある住宅地に
- ・のこぎり屋根など近代産業遺産の再利用

■施策の案

【建築物、倉庫、門扉などの工作物について】

- ・新しい建築物、工作物のデザインルールづくり（高さ、色彩、屋根形状、素材など）や、敷地の細分化防止などによって、「地域作法」に則ったまち並みに誘導していく
- ・景観重要建造物や文化財の指定、登録などにより、古い建物を「守るべきもの」として位置づける
- ・古い家屋の維持に対する助成



【緑の保全について】

- ・景観重要樹木や保存樹林の指定などにより、郷中の貴重な緑を位置づけ、保全する
- ・庭木や軒先の緑を増やす、ブロック塀をやめ、生け垣を増やす

【道路について】

- ・弘法道を中心に、道路の美化化、サイン表示の設置など、快適に散歩できる道にする

26

生活景観というのは、そこで暮らしている方の生活ぶりがにじみ出て、そこで生活しているということが伝わるようなものです。
そういったものを、大事にしていくことが重要です。

緒川(屋敷)の景観調査 (海道研究室、米澤研究室)



27

緒川では、学生と一緒にいろいろな調査をしています。
ふるさとガイドのボランティアにもご協力いただいています。

緒川(屋敷)の景観

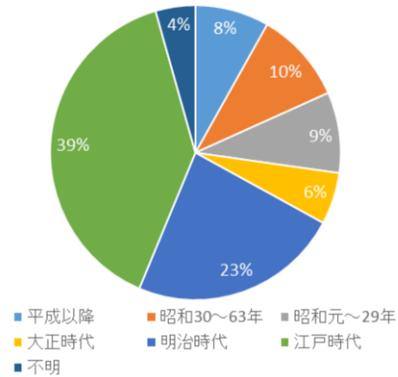


景観と生活環境に関する緒川地区(景観重点候補地区)
住民アンケート調査結果(中間報告):
ご先祖や自分が緒川に住み始めた時期

緒川地区(景観重点候補地区)住
民アンケート調査:2018年11月
約450戸に直接配布、有効回収
153票(コミュニティセンター持参)。
ただし、各戸2票を同封した。

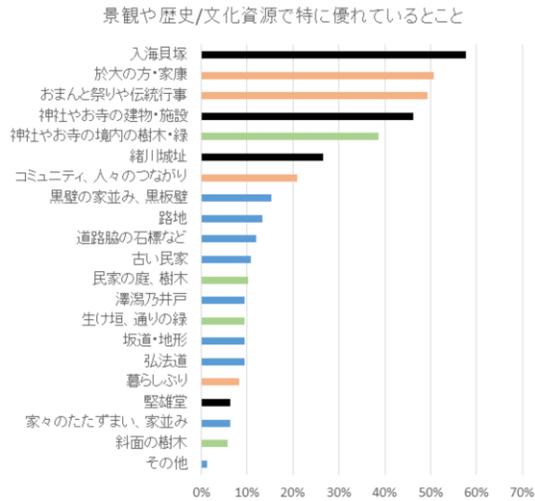
回答者の先祖や自身
が緒川地区に住み始
めたのは、39%が江戸
時代、23%が明治時
代、大正時代が6%と、
この地域に長期にわ
たって、居住してきた住
民が多い。

先祖や自分が緒川に住み始めた時期



景観と生活環境に関する緒川地区(景観重点候補地区)
 住民アンケート調査結果(中間報告):
 景観や歴史/文化資源で特に優れているとこと

住民にとって、地域の景観や歴史/文化資源で優れていると思っているのは、入海貝塚がもっとも高い。於大の方/家康とおまん和祭りなどが次いで高い。
 黑板塀、路地、坂道/地形、古い民家、家並みなど、直接景観に結びつく景観要素への評価は、10～20%である。



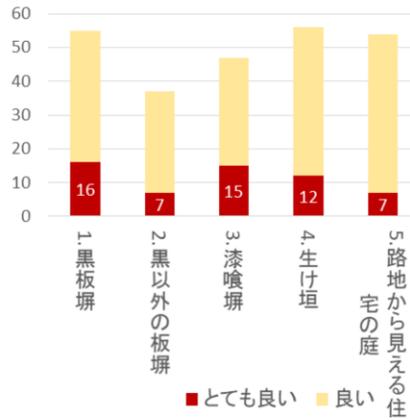
景観と生活環境に関する緒川地区(景観重点候補地区)
 住民アンケート調査結果(中間報告):
 塀/生け垣の景観評価

緒川地区の景観の特徴のひとつは、黒板塀、黒壁である。

住民自身の評価では、50%以上が黒板塀を「とても良い」「良い」と評価しているが、「とても良い」は16%と、意外に少ない。

生け垣と路地から見える住宅の庭は、黒板塀と同じくらい、良いと評価されている。

塀/生け垣の景観評価

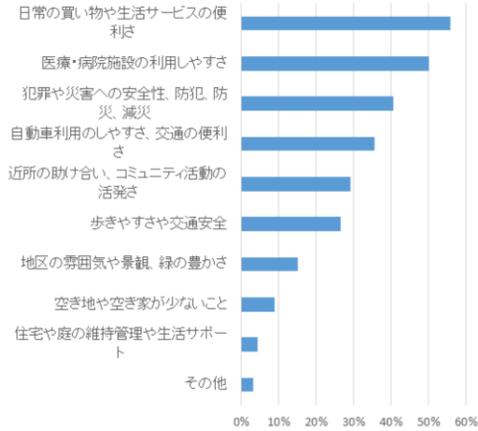


景観と生活環境に関する緒川地区(景観重点候補地区)
 住民アンケート調査結果(中間報告):
 住み続けるために大切と思うこと

緒川地区にこれからも住み続けるために、大切なことは、日常の買い物など生活サービスの利便性や医療施設の利用のしやすさが約50%と高い。さらに防犯や防災などの生活の安全性が40%の住民が重要と考えている。

地区の雰囲気や景観については、約15%とこれらの必須の項目から比べれば、高くない。

住み続けるために大切と思うこと



徳寺川を軸とする〈根〉と〈狭間〉の景観

景観特性と課題

『東浦町景観計画』より

■景観特性・景観資源

- 明徳寺川は東浦町の中央部を流れ、南北地域の境界となる「根」と「狭間」の軸
- 河川の水辺とその両側の農地、斜面樹林に挟まれたのどかな里地（里山・里川）の田園景観は、ある人にとっては広がりのある景観であり、またある人にとっては囲まれた落ち着いた景観であり、どちらにとっても「ほっとする景観」である
- 於大まつりの行列が練り歩く河川沿いの桜並木（於大のみち）
- 中央図書館をはじめとする文化施設ゾーン、於大公園、於大の方ゆかりの乾神院、自然環境学習の森など、人の集まる施設を結ぶ軸、並木道

■現状と問題点・課題

- 河川沿いの小規模農地の保全、斜面樹林地の荒廃（竹やぶ化）の防止
- 住民が水辺の自然環境に触れて親しむ場の充実
- 明徳寺川と平行する県道沿道の建築物、構造物の景観コントロール



明德寺川を軸とする〈根〉と〈狭間〉の景観

景観まちづくりのテーマ/方向

『東浦町景観計画』より

■景観まちづくりのテーマ・方向性

於大まつりが映える水辺と緑の景観まちづくり
(自然環境と文化に触れる川づくり・道づくり)

- ・ほっとする自然景観を美しく守る
- ・家族連れが楽しく散歩できる里川、里山に



まとめ

景観と風景を活かし、育てるまちへ



東浦町全体で、具体的に景観計画に基づいた取り組みが進んできました。
今日は、みなさんのご意見をいただき、景観について理解を深めたり、生路のいいところが見つかったりするいいと思っています。
また、今後行っていきたい取り組みも見つかればと思います。

ご清聴ありがとうございました。